

特別陳列 ひらき こう い ち 開光市展 —誕生(BIRTH)—



開光市《迷宮》2008年 油彩・キャンバス 笠間日動美術館蔵

■ 幽玄の世界 能面・能装束

■ 大乘寺の文化財【古美術】

■ 明治の工芸

■ 優品選【近現代絵画・彫刻】

- 12月の企画展示室
- 企画展Topics「絵画にみる江戸の暮らし」
- 展覧会回顧「近代美術の至宝—明治・大正・昭和の巨匠—」
- ミュージアムレポート
- 12月の行事

開光市展 —誕生(BIRTH)—

◆後援／北國新聞社 ◆協力／日動画廊

11月19日(土)～12月18日(日) 会期中無休

学芸員の眼

開氏の描く人物は脱皮をして成長する甲殻類や虫たちのように変容していきます。複数の顔は脱皮の前後であり、異なる感情を表します。不可思議な形の胴体は幽体離脱でしょうか、重力を無視した角度で立ち上がります。巨大な頭が逆立ちしていることもあります。

『生老病死』、生きることに、老いること、病むこと、死ぬこと、苦しみは人の姿を否応なしに変えてしまいます。人体の変容・変質は不条理ですが、必然です。しかし、姿が変わっても、変わらぬもの、変わらぬ美は存在するはずで。

画家自身を投影した巨人や少女少女たちが、自己の本質を求めてさまよい歩く流浪譚、開氏の作品を、そう定義してもいいのではないのでしょうか。怪異な画面ですが求道的なたたずまいを感じます。

本展は洋画家開光市氏の金沢美術工芸大学時の初期作品から最近作まで、約六十点を一堂に展示し、開氏の創作の歩みをご覧いただくとうとするものです。

作品は九メートルを超す超大な作品から、典雅な趣を持つ小品まで実に多彩です。巨大作品であれば、人はまず、異形の巨人が横たわる怪奇な大画面に驚かされ、近づくにつれ細部の緻密さに魅了されることでしょう。大画面を間断なく描ききる構成員と、微細なミクロの世界を思わせる複雑で美しい絵肌、そして想像力を羽ばたかせる幻視の世界が、独自の世界を展開しています。

一方小品には、少女や少年たちがたおやかではあるものの変容する姿が描かれます。彼等は変わりゆく自分に恥じらい戸惑いを見せるのですが、そうした姿が擬古典的に抒情性を持って描かれるのです。

多重露出やスローシャッターで写し出されたかのように、開氏の描き出す人型は、あるいは人の姿

は、変型されたいくつかの像で構成されます。動きの始点から終点まで、いずれかが虚であり実であるということはなく、複数の実像が自己を語り、そして鏡に映る相似形を連想させもします。

精緻に描かれる複数の顔を持つ頭部に対し、胴は簡略化され、時には芋虫のように引き延ばされ、時には切り取られ、頭と手足が直結していることすらあります。手足は極端に細長く、顔と同様何本も描かれるので、蜘蛛をイメージされる方も多いでしょう。開氏のこれまでの代表作を網羅した初の回顧展形式の展示です。抜群の描写力と構成員に裏打ちされたヒラキワールドをお楽しみください。

◆イベント

長谷川智恵子氏(日動画廊副社長)と
画家・開光市氏の対談
日時／11月19日(土) 午後2時～3時
会場／第4展示室《要観覧料》



《楽園》2013年
油彩・キャンバス



《領域》1995年 油彩・キャンバス
北國新聞社蔵



《私の城》2015年 油彩・キャンバス
日動画廊蔵

大乘寺の文化財

11月19日(土)～12月18日(日) 会期中無休

加賀の古刹大乘寺は、守護の富樫氏により鎌倉時代末、現在の野々市市に創建されたと伝えられます。後に永平寺より徹通義介を招き、この寺を禪寺として開山しますが、それにより大乘寺は、永平寺以外では最初に建てられた曹洞宗寺院であることから、「曹洞宗第二の本山」とも称されることとなります。

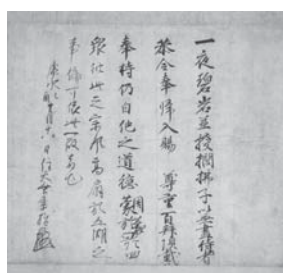
その後、永光寺・総持寺の開山でもある大乘寺二世登山紹瑾、三世明峯素哲の時期に基礎が築かれ、室町時代には足利幕府の祈願寺として寺領・屋敷が安堵されました。ところが一向一揆によりその保護者を失い、平定した柴田勝家の兵火によって、堂宇も焼失しました。

江戸時代にいたって二代藩主前田利長の時代に、

木の新保(現在の金沢市本町)に移転・再興され、慶長六年(一六〇一)には加賀藩の老臣で本多家の家祖政重により、本多家下屋敷に隣接する石浦大乘寺坂下(現在の本多町)に移転します。今でも県立工業高校から石引台地へ登る坂を大乘寺坂と呼んでおり、その名残をとどめています。

ついで元禄のころ、藩より与えられた現在の地に移転し、今日に続くことになるのです。

現在、大乘寺に伝世する文化財は当館に一括寄託されており、古文書・絵画・工芸など総数およそ四百点のほりです。今回の展示ではそのうちより、重要文化財の『佛果碧巖破関撃節』(一夜碧巖集)をはじめとする文化財を公開します。



重要文化財《三代嗣法書》第四通

幽玄の世界 能面・能装束

11月19日(土)～12月18日(日) 会期中無休

金沢で宝生流の能が盛んなことを「加賀宝生」と称します。宝生流を好んだ將軍徳川綱吉が大名家へもそれを強い、その命により貞享三年(一六八六)、五代加賀藩主前田綱紀は江戸城内で〈桜川〉を舞いました。これが「加賀宝生」のはじまりです。

「はじまり」を綱紀とするならば、「確立」させたのが十三代斉泰といえましょう。父斉広の影響から幼い頃より能を習い、六歳にて〈狸々〉で初舞台。三十代に脚氣を患うも、能を舞うことによって完治させ、演能は更に増加します。今日、前田育徳会に伝わる能装束の多くは、斉広・斉泰の時代に仕立てられたもので、附された畳紙から、どのような時に使用されたかがわかります。

貴重な古渡裂で能装束が仕立てられたのは、嘉

永五年(一八五二)のこと。前田家が家祖とする菅原道真没後九五〇年にあたり、斉泰は道真を主人公とした能〈来殿〉を創作します。後場で道真が「大富天神」となって優雅に舞う能ですが、本装束は〈来殿〉の前場に用いられたと推測できます。

安政五年(一八五八)十二月二日、斉泰の有卦入りを祝う能が行われました。演じられたのは〈右近〉〈元服曾我〉〈井筒〉〈鉢木〉〈飛雲〉〈松虫〉〈須磨源氏〉、頭文字は「うけいはひます」。この時妹の寿正院様より贈られた舞衣(写真)の図柄は、「福包・笛・ふり太鼓」。「ふ」尽くしのめでたい装束でした。

本特集では、こうした加賀藩の能の歴史に触れながら、能面と能装束を紹介します。

《花色地福包に戻り笛振太鼓模様舞衣》

第3・6展示室【近現代絵画・彫刻】

優品選

11月19日(土)～12月18日(日)
会期中無休

絵画彫刻の優品選は、第4展示室で開催中の「開光市展―誕生(BIRTH)―」とは、対照的な作品群をチョイスしてみました。「開光市展」は、ご覧になる皆さんに、きつと強烈なインパクトを与えることとでしょう。そこでひととき、開光市の精緻で怪奇で強烈な、イメージの世界から皆さんを呼びもどし、簡明にしてアカデミックな優美の世界にお連れします。ここを一度休めたら、どうぞまた開光市の深い迷宮へと入ってみてください。

さて、それでは、どのような作品をご覧いただきましょう。複雑さより簡潔な作品。難解より明瞭な作品を選んでみました。日本画では、やはり風景画などいかがでしょうか。西山英雄《阿蘇嵐》は、季節的にひと足早いですが、そろそろ訪れる冬を味わえ

ます。暗い背景に浮かぶ阿蘇山頂から吹き下ろす、遠く静かな、しかし厳しい風の音が聞こえてきます。

油彩画では、去る九月二十一日に八十四歳で逝去した塗師祥一郎の《山間》を紹介します。昭和七年に小松市に生まれ、金沢美術工芸大学を卒業し、小糸源太郎に師事。日展を中心に活躍し、平成十五年には日本芸術院会員となっております。雪景色を主体に日本の風景を一途に求めた画家の、確かな筆致をご堪能下さい。

彫刻では、松田尚之《人魚》がおすすです。しつかりとした量感と、健康的でしかも詩情あふれるおもむき。ゆたかな髪重力に反するフォルムは水中の風景までも暗示します。

静かで心豊かな時間をお楽しみください。



塗師祥一郎《雪後の湖畔》

第5展示室

明治の工芸

11月19日(土)～12月18日(日)
会期中無休

明治時代の美術工芸は近年、再評価が進んでいるジャンルの一つです。海外のコレクターの作品がまとめて紹介され、研究者のみならず一般の美術愛好家の方々からも注目を浴びていますが、つい二十年ほど昔までは、日本美術史の中で「語られない」ジャンルでした。その理由の一つが、内外の博覧会出品そして海外輸出を前提とした、過剰な装飾と、大きさや形態の変化です。

江戸時代に栄えた細密工芸が、そのまま大きくなったような金工や陶芸、日本家屋に馴染みにくい漆の額絵などは、大きな社会的変換があつたゆえに起こった変化であり、これまでの日本美術の流れと同じ価値観のままで見るとは難しい作品です。ところが明治は既に百年以上の時を隔てており、

この時代の作品を見る人々の感覚にも変化が生じました。作品の大きさや額装という形体は、むしろ馴染みやすいものとなり、磨き上げた技巧を駆使した過剰な装飾が「悪趣味と紙一重」から「分かりやすく面白い」に変容し、同時にこの時代の作品を持つ、歴史的な意味も見直されています。

今回は、これまで木彫として展示してきた作品も併せての展観です。牙彫師として知られていた石川光明の木彫による「犬」は、小犬二匹の表情がユーモラスな、かわいらしい作品ですが、毛並みのうねりや体付きのやわらかさの表現に、宮彫師の家に生まれ、帝室技芸員であつた技術が冴えています。長い時間を経て、新たな視点で評価された作品群をお楽しみください。



石川光明《犬》

十二月の企画展示室

第7～9展示室 2016 二科会写真部 石川支部&会員会友展

12月14日(水)～18日(日) 会期中無休

一般社団法人二科会写真部石川支部による展覧会を開催します。今年、石川支部展をより楽しんで頂きたく、ポリュームアップをはかりました。二十二名の入選者を数えた「第一〇一回二科会」の巡回展である金沢展に加えて、「会員会友展」も併催します。入選支部員の最新作品だけでなく、修練された創造的写真表現を行う会員会友の作品も多数展示いたします。

写真もデジタルカメラ時代となり、誰もが手軽に楽しめます。だからこそフィルム時代に劣らない芸術作品として、写真作品の追及を続けています。皆様のご高覧を頂き、ご指導ご鞭撻を賜りますようご案内申し上げます。

◇入場無料

◇連絡先／一般社団法人二科会写真部 石川支部

支部長 土田貴夫

電話：〇七六―二五一―〇七二三

志賀町を描く美術展は、志賀町の四季を通じて彩りを添える風景・豊かな自然の恩恵を受けて育まれてきた伝統文化や慣習などをキャンバスに描いていただくことにより、志賀町をより多くの皆様にPRする目的で開催しております。例年、招待作品から一般作品まで約一六〇点の洋画・日本画・水墨画・水彩画などの作品を富来展と金沢展の二会場で開催しております。

◇入場無料

◇連絡先／志賀町生涯学習センター

羽咋郡志賀町高浜町カの一番地一

電話：〇七六七―三二―二九七〇

丹羽俊夫会長が石川県を基盤として創立し、今年四〇回展を迎えます。

理事長三宅厚史、副理事長今村文男をはじめ、県内外からの出品を中心に日本画一〇〇点余を展覧。また、新院展選抜金沢展に出品された秀作も多数展示致します。

◆主な出品者

北出朝之・保科誠・柴田輝枝・村中博文・南好乃・
中村勝代・大窪昭子・牛丸美代子・北川真理子・
松尾功一朗・伊藤夏子

◇入場無料

◇連絡先／丹羽俊夫

金沢市窪一―二二三

電話：〇七六―二四四―五九一六

第8・9展示室 第40回 公募日創展& 新院展選抜金沢展

12月17日(土)～18日(日) 会期中無休

第7～9展示室 第28回 志賀町を描く 美術展金沢展

12月8日(木)～11日(日) 会期中無休

※本展は午前9時30分～午後5時まで

「絵画にみる江戸のくらし ―浮世絵版画を中心に―」

平成29年1月4日(水)～2月12日(日) 会期中無休

今回は、本館に浮世絵が収蔵となった経緯についてお話ししましょう。実業家であった久世重勝さんは、生前より様々な美術品を収集されていましたが、浮世絵だけは最後まで手元に置き、大切にしておられました。その後、ご遺族より寄付のお申し出をいただきましたが、納められた箱がいくつもあり、その量の多さに「さて、どこから作業を始めたらいのやら」と途方に暮れたのを覚えていいます。展覧会の開催は翌春と迫っていました。

それから毎日、未整理の浮世絵との格闘です。画題や作家名はもちろん、署名・極印^{きまのいん}、版元・摺師^{すりし}の確認、サイズ……。続きものであれば、どれとどれが続くのか、揃いものであれば、何枚揃うのか。それまで本館では浮世絵は未収蔵であったこともあり、頭を悩ます地道な作業が、ひたすら続きました。

そのうち、収集された久世さんの「好み」に気づきます。役者絵が多いのです。実に半数以上で、団十郎・菊五郎・幸四郎と人気役者が並び、とても賑やかです。三枚続きの役者絵などは、まるで舞台を観ているかのように、華やかなものでした。大阪を中心に摺られた上方絵と呼ばれる珍しい役者絵も揃い、きつと久世さんも楽しみながらコレクションされたのだらうなあ、と思いを馳せるようになりました。

年明けに始まる企画展では、豊原国周の役者絵シリーズを初めてご紹介します。どうかご最良に、よろしくお願いいたします。



豊原国周
《雲霧仁左衛門 坂東彦三郎》

※訂正：先月号の企画展Topicsで本展の会期が平成二十八年となっておりました。正しくは平成二十九年です。訂正してお詫び申し上げます。

ミュージアムレポート

この秋に行われた企画展「近代美術の至宝」の関連行事、「0才からのファミリー鑑賞会」の様子をご報告します。

「0才からのファミリー鑑賞会」は、「赤ちゃんも作品をみる」と捉えての、乳幼児とご家族が対象のワークショップです。神奈川県内の美術館等で赤ちゃんからお年寄りまでのワークショップで活躍の「赤ちゃんからアートフレンドシップ協会」代表理事、富田めぐみさんをお迎えし、小さなお子さんと展覧会を楽しむ方法をご案内しました。

今回の参加者の中の最年少四ヶ月の赤ちゃんから小学生までの子どもたち、おばあちゃんも来てくださったご家族、お子さん三人とご両親の五人で参加くださったご家族など、素敵なファミリー鑑賞会になりました。美術館での作品鑑賞というと、大人の方でも敷居が高いイメージがありますが、展示室鑑賞に備え、講師の富田さんから心の準備をお話し頂いたことで、皆さんリラックスして鑑賞できたようです。まわりの環境に対して感覚や感受性のひらかれた子どもたちだからこそ、できる鑑賞があることを感じていただけたようで、保護者の方から「赤ちゃんでも美術を楽しむ事がわかったので、今後一緒に行きたいと思う。」(子ども一歳十ヶ月)「思った以上に作品の感想を子どもと言合えた。」(四歳)「子どもは子どもの視点で美術を楽しんでおり、大人も楽しんで良かった。」(十一ヶ月、四歳、八歳)との感想を頂きました。



「近代美術の至宝 —明治・大正・昭和の巨匠—」



美術というコンセプトの中で、展示空間を分けることによってそれぞれの美術の流れや特徴などが、理解し易くなるのではないかと思われたためです。いずれにせよ、地方ではなかなかお目にかかれない名品を楽しんでいただけたのではないのでしょうか。

本展は、わが国の近代美術を代表する作家の名作を集めた展覧会で、一・二作家の作品、一・九点を展示しました。これまで当館で開催した、全国的に知られている工芸を含めた近代美術の展覧会は、たとえば平成十三年に開催した「花と緑の名品展」(古美術作品も含む)や、二十一年の「近代日本美術の精華」(東京藝大美術館のコレクションが中心)などがあげられますが、これらはテーマや出品作品の所蔵が限られていた内容でした。今回は、まさに教科書に載っているような作品を、各地の所蔵者からお借りして展示したもので、日本近代に華開いた多彩な美術表現を鑑賞する絶好の機会になったのではないかと思います。

会場では、第7展示室を工芸作品でまとめ、第8・9展示室を絵画・彫塑で構成しました。工芸と純粹美術を分けたのは、鑑賞目的に制作された絵画・彫塑が、美術の枠に自然に取り込まれていく状況と、使うという機能的な側面を持った工芸が、美術として受容されていく過程が異なり、そのため近代美術というコンセプトの中で、展示空間を分けることによってそれぞれの美術の流れや特徴などが、理解し易くなるのではないかと思われたためです。いずれにせよ、地方ではなかなかお目にかかれない名品を楽しんでいただけたのではないのでしょうか。



ミュージアムショップ通信

去る十月二十三日、企画展「近代美術の至宝—明治・大正・昭和の巨匠—」が閉幕いたしました。ご来館された方からは、「作家の名前は知っていたけれど、作品をみたのは初めて」ですとか、逆に「知らなかったけれど、一気に好きになりました」などのお声をいただきました。興味の幅を広げていただけたようで、うれしく思います。

さて、つい見逃した!とか、お気に入りの作品をもう一度楽しみたい!という方には、こちらの図録がおすすめです。ハンドバッグにも納めやすいB5変形。作品の色あいを再現することに力を入れました。作品ごとの解説に加え、学芸員が「近代美術」を語る論文が四本、作家解説、工芸の技法解説など、盛りだくさんの内容です。これだけぎゅっと詰まって、価格は税込一、八〇〇円。ミュージアムショップでお求めいただけます。



十二月の行事予定

■ビデオ上映会 午後1時30分／ 美術館ホール 入場無料	
12月4日(日) 加賀百万石 美と歴史風土 (33分) 映画 能面 (26分)	
■土曜講座 午後1時30分／ 美術館講義室 聴講無料	
12月10日(土) 油絵の絵肌—日本的油彩の展開—	二木伸一郎
17日(土) 石川の文化財5	谷口 出

会期：平成29年1月4日(水)～2月12日(日) 会期中無休



歌川国貞《改名祝儀當酒盛》



歌川国芳《日本駄右工門猫之古事》

次回の展覧会

会期：平成28年12月21日(水)～
平成29年2月12日(日)
※12月29日(木)～1月3日(火)まで休館

前田育徳会 尊経閣文庫分館		第2展示室		ご利用案内 コレクション展観覧料 一般 360円(290円) 大学生 290円(230円) 高校生以下 無料 ※()内は団体料金 毎月第1月曜日はコレクション 展示室無料の日(12月は5日) 今月の開館時間 午前9:30～午後6:00 カフェ営業時間 午前10:00～午後7:00 年中無休 12月の休館日は 19日(月)～20日(火)、29日(木)～31日(土)
新春優品選		新春優品選 —古美術—		
第3・4展示室	第5展示室	第6展示室	1F企画展示室	
書の美 高光一也の世界 人体彫刻考 I	新春優品選 —工芸—	東京国立近代美術館 工芸名品展	絵画にみる 江戸の暮らし 平成29年1月4日(水)～ 2月12日(日)	

ガン保険

チューリッヒ生命「終身ガン治療保険プレミアム」

通院治療が増加している時代の、
画期的なガン保険

今、ガン保険にご加入されている方も、
ご加入されていない方も今すぐチェック!
通院料 無料

既にご加入されている方へ
●主契約：放射線治療給付金、抗がん剤・ホルモン前治療給付金(給付月額20万円)
●保険期間・保険料払込期間：終身
●特約：ガン先進医療給付金、ガン診断給付金(一括50万円)、悪性新生物保険料払込免除
●保険期間・保険料払込期間：終身

追加のご加入で、ガンへの通院治療の保障を充実
●保険期間・保険料払込期間：終身

ガン保険にご加入されていない方に
●主契約：放射線治療給付金、抗がん剤・ホルモン前治療給付金(給付月額20万円)
●特約：ガン先進医療給付金、ガン診断給付金(一括15万円)、ガン先進医療支援給付金(一括50万円)、悪性新生物保険料払込免除
●保険期間・保険料払込期間：終身

自由設計プランで、ガンへの通院治療と診断給付金と先進医療まで備える

月払保険料 1,500円 (35歳男性) / 1,500円 (43歳女性) / 3,216円 (40歳男性)

広告有効期限：2017年6月30日 募集16004-20160112
受付時間：10時～19時(日曜定休)
※一部の固定電話から繋がらない場合がございます。
ZURICH 株式会社ニートン・フィナンシャル・コンサルティング
〒160-0022 東京都新宿区新宿5-17-18
※記載の保険料は2015年7月現在のものです。※この欄は商品の概要を説明しています。商品の詳細については、パンフレット、ご契約に関する注意事項(契約概要、注意喚起情報)等をご確認ください。

0037-6001-61202

石川県立美術館だより
第398号(毎月発行)
2016年12月1日発行
〒920-0963
金沢市出羽町2番1号
Tel:076(231)7580
Fax:076(224)9550
URL: http://www.ishibi.pref.shikawa.jp/